June

2009

PHF 1

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

## ■ブログ kumamoto-ymca.wablog.com -ルマガジン登録 v.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cg YMCA教育・福祉講演会

難を抱えている当事者を受け入れ、 当事者とともに活動を続けられてい さんは、「べてるの家」設立に携わり、 の社会進出をめざした地域活動へと ラブ「どんぐりの会」の活動。当事者 寄り添い、共感することの大切さを の家」が設立されました。5月2日 ます。向谷地さんの体験を通して、困 広がり、地域活動拠点である「べてる がいを抱えた当事者による回復者ク (土)の講演会に招聘した向谷地生良 北海道浦河町で始まった、精神障

地域です。 多いのです。また、ホームレスのほと を抱えています。過疎地で、障がいを ラブレッドの産地ですが、北海道内 おり、二重三重の差別を受けてきた 戦時に強制連行されてきた韓国人も 持つ人、生活保護を受けている人が では最も空港から遠く、多くの困難 んどがアイヌ民族で、第二次世界大 イヌ語で、霧が深い、という意味。サ 「べてるの家」がある。浦河〟は、ア

私の学生時代は高度経済成長期。

たアルコール依存症の夫婦の家に がわき、汚物にまみれて暮らしてい

勉強をすれば人生におけるリスクを 減らせ、幸せや安心を引き寄せられ が現実だ〟と思いました。 天井を見つめて時間が過ぎるのを待 生を苦労して歩んできた方が多く、 して迫ってきました。つまずきの人 いった現実が、自分の将来の現実と る人たちが抱えている病や障がいと 浴介助などを行ううち、入居してい ホームに住み込みました。食事や入 からの仕送りを断って特別養護老人 私は、苦労を体験しなければ、と、親 は永遠に続くと思っていたんです。 るという常識の中で生き、この繁栄 つ人のまなざしを見た時、私は、これ

おり、子どもたちはその環境の中で 性、アルコール依存症の男性が複数 出かけた先の家には統合失調症の女 た。最初に一番困っていると聞いて 有病率は全道平均の2倍近くでし 言われていた浦河町。精神障がいの に決めたのが、道内で一番貧しいと 時はケースワーカー)として就職先 精神科のソーシャルワーカー(当

子どもたちを救いたかったのです。 崩壊、貧しさという。負\*の連鎖から わたって背負ってきた凄まじい家族 ました。アイヌの人たちが何代にも きました。子どもを屋外に連れ出し 住所や電話番号を刷り込んで配り歩 もどこでもいつまでも」。名刺に自宅 し私のキャッチフレーズは「いつで の話を聞くのが一般的でした。しか ワーカーは、イスに座って訪れた人 いと言われています。ソーシャル ある程度の距離を保たないといけな たり、勉強したり…。社会教育も行い しかし、ぼろぼろの家の中にウジ 精神障がいを持つ人への支援は、

**ASSOCIATION** 

ました。 る」と思ってもらわなくてはと感じ は、当事者のみ。当事者自身が「変わ いる当事者の現実を変えられるの ないと知ったのです。困難を生きて ました。この現実は、一人では動かせ 行った時、私は傲慢だったと気づき

てるの家」からの息吹

語ってもらうことにしました。浦河 出て当事者が自らの病気の体験を 学ぶべき大切な人生経験だと、町に は、地域に暮らす人たちにとっても くりをめざしました。当事者の体験 ら「社会進出」へ、「作業」から「商売」 です。会では、当事者の「社会復帰」か それが回復者クラブ「どんぐりの会」 神障がいの人のことを知ろうと、教 時の支援としては非常識ですが、精 い可能性があると思ったんです。当 わき上がってきました。そこに新し 連帯感を感じ、心の中に深い喜びが までに苦しんでいる。そこに参加で なこのように行き詰まり、病を得る 線いっている」とも思いました。みん が、絶望している状態の自分を「いい した。精神的に追いつめられました 会で一緒に暮らすことにしました。 きているという満足感に支えられる ていたため、相談外来から外されま へ、そして安心してさぼれる会社づ 大変な苦労に満ちている町です。



人だと思っています。

私のやり方は病院の方針と異なっ

える言葉を生み出し、紡ぎだすこと けない弱さの中にあって、現実を伝 シャルワーカーにとってのいのちは こそ、現実を変える大切なものがあ とに何かがあります。悪条件の中に です。何でもないと思っている足も る力を持たなければなりません。情 大切なマナーだと学びました。ソー 受け入れられる人として立つことが るだろう」という共感性です。弱みを こったら、私にも同様のことが起こ は、「もし、あなたの現実が私に起 難を持つ人の前に立つ時のわきまえ るのです。 言葉』です。悪条件を、言葉として語 私がソーシャルワーカーとして困

向いかり る人生』『「べてるの家」から吹く の「非」援助論』『安心して絶望でき 浦河教会役員。著書に『べてるの家 祉学部教授、社会福祉法人「浦河べ ワーカー、北海道医療大学看護福 風』など。 てるの家」理事、日本キリスト教団 1955年生まれ。ソーシャル 生良さん

に当事者たちが町民として参加しよ うと設立したのです

がいなどを抱えている人たちは病を 命体としての危機のサイン。精神障 た人たちが立ち現れてくるのは、牛 りを取り戻すことです。困難を持っ のままの感情を分かち合い、つなが られないものを排除し始めた頃で その存在自体が社会を変えられると 得ることで適応しようとしており、 です。ですから回復のためには、あり う生活をしていた人間が自然を科学 0年前といわれています。自然に従 れる統合失調症が発生したのは20 いう大切なメッセージを持っている 人と人とのつながり、営みや相互性 す。それは「いのち」そのものであり、 でコントロールし、数字に置き換え 現実との生命的なつながりが失わ

である。

べてあなたがたに知らせたから と呼ぶ。父から聞いたことをす ある。わたしはあなたがたを友

うことの困難を覚えることがあ わけではありません。いろいろ な壁にぶつかってイエス様に従 信仰生活はいつも順調という

「友人関係の信仰

熊本キリスト教会

柴崎美智子

ると云われたのです。父から聞 いたのです。それまでの私はど 15章を読んでいる時、15節の御 ずっと何事もイエス様に相談し ぱいに満たされました。以来 いたことを何でも話すと言われ うも主人と僕の関係の信仰だっ り返し読んでいてハッと気がつ 言葉が飛び込んできました。く たとたんに私の心は大喜びで一 たことに。これからは友達にな 或る日、ヨハネによる福音書

達の弱さを知ってあわれみ、変 くしみ深き友なるイエスは、私 る友でいてくださいます。 わらぬ愛をもって導いてくださ 讃美歌の中にあります。いつ 恐れず平安でいられるようにな

てすぐに問題が解決しなくても

りませんか! あなたもイエス様と友達にな



ヨハネによる福音書第15章15節

もはや、わたしはあなたがた

何をしているか知らないからで を僕とは呼ばない。僕は主人が